

令和5年度 第7回 政策決定会議 会議録⑤

-
- ◆開催日時：令和5年11月29日（水） 14：21～14：41
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：残総務部長、櫻井 IT 推進課長、林主幹(DX 推進担当)、長江情報化推進担当長、高橋システム管理担当長
-

◆審議事項

岸和田市行政 DX 推進計画（案）について・・・・・・・・・・・・・・・・総務部 IT 推進課⇒承認

◆審議概要

- ◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。
- ◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉まず、これで市役所内と市と市民との IT の関係が計画としてようやく整理できた。森内閣が平成 12 年に IT 革命を提唱してから 23 年経っていることと、デジタル庁ができて2年以上過ぎているということもあり、岸和田市は DX 化が遅れていると感じており、早くしないとさらに遅れていくため、ぜひ作業部会で、しっかり目標設定をし、各部署の役割を明確にし、具体的に DX 化を進めてほしい。

次に、市民との関係でデザイン志向という考え方。市民ニーズを的確に把握し、ぜひとも的確な DX をめざしてほしい。実績を挙げただけで税金の無駄遣いになる DX 化をしないよう、くれぐれも注意してほしい。

最後に、今のところデジタル人材は不足していないようだが、民間でも IT 人材の発掘に力を入れていると聞いている。先日、南海電鉄と話していた時も、非常に能力が高く IT 技術に優れており、賃金が安いネパール人の IT 人材を派遣しているということを知った。各社、人材不足をどうクリアしていくかを模索しているので、そのような知恵も借りながら、IT 人材の発掘にも今から取り組んでもらいたい。

〈波積副市長〉私自身、5年前に農林水産省の農研機構という研究所で DX の担当をしていた。その時、トップの理事長が三菱電機の元副社長で、かつ政府の委員もやっており、Society5.0 を言い始めた人だった。その方からいつも「DX をやるのはいいが、何十億円も投資するのだから無駄なことはやるな、結果的に効率的にならなかったということはやめてくれ。」と言われていた。その時によく言われたのが、「良い DX と悪い DX がある。悪い DX には絶対するな。」ということ。悪い DX には2つ特徴がある。1つ目は、基本システムを変えてしまうこと。今の仕事をそのままの形でシステムを入れ込むために、オプションで何億円もかけてシステムを変えると、結果的にその何億円が継続的に必要になる。ある民間企業で、決裁文書を紙の形のまま綺麗に入れた上でハンコも残し、ハンコの向きを、社長がまっすぐで専務は社長に向かって頭を下げ

る形で少し傾き、下の者になるほど傾けていくというシステムをオプションで入れた会社がある。そのようなことはやめてほしい。2つ目は、基本システムはそのまま使うが、今の業務フローをそのままにすること。システムを入れる前に無駄な仕事を省き合理化することが重要。そうしなければ市民も職員も不便で市として幸せにならない。システムはあくまでツールだということを明確にするため、20 ページに「ビジョン 将来のめざすべき姿」として5つの項目にまとめている。総務省は 20 項目ほど書いているが、岸和田市としては5つに整理した。1 番目は「便利な市民サービス」。市民が便利になること。2～4 番目は職員が便利になる話で、2 番目は「行政運営の効率化」で、現在の仕事を効率化すること、3 番目は「やさしいデジタル化」で、デジタルが苦手な人も取り込んで進めること、4 番目は「変革する組織」で、未来に向かってデジタルをうまく使える人材を育てたり、デジタルをうまく施策に使ったりしていくこと。最後は「セキュリティの確保」。DX は目的ではなく、あくまでツールであり、便利にするためにできることから行い、節約したお金や人は新しい岸和田市に投資するための基盤になるものなので、その観点から取り組んでいきたい。

〈教 育 長〉学校現場でも 1 人 1 台端末が実現し、ICT 教育が進んでいるが、機械を使うことが目的ではなく、機械を用いていかに主体的で対話的で深い学びを実践するかということが大事だと常々言い続けている。DX も然りで、デジタル人材の育成が非常に大事。単に機械に精通している、知識があるということではなく、それを通じて波積副市長がおっしゃった5つのビジョンをいかに実現していくか、ということについても精通した職員を育てていただきたい。

〈市 長〉具体的なアクションなど見やすくてよい。計画策定前から行政 DX の取組は進めているが、進捗状況は担当部署によってばらつきがあると聞いた。これは、意識のばらつきの差だと思うので、職員全員に同じ意識を持ってもらえるよう、岸和田は DX を進め、変わっていくというムードを作り、大きく変わっていくことを期待している。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総務部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市行政 DX 推進計画(案)について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	・本市の行政 DX をより加速していくため「岸和田市行政 DX 推進計画」を策定し、職員も幸せを感じ、市民の皆様も幸せを感じる、そんな未来をめざすため、市役所も変革していく。行政 DX 推進計画案について、1月4日～2月5日にパブリックコメントを実施する。 ・行政 DX 推進委員会システム部会の審議事項について報告。
説明者	櫻井IT推進課長 林主幹 長江担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第7回会議
付議事項	岸和田市行政DX推進計画(案)について

★取組の目的

対象	庁内
どのような状態を目指す	デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていく。

★総合計画上の位置付け

6020205	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	② 適正で効率的かつ効果的な業務の実施を進める
	行政の役割	ICTを活用し、効率的に事務を行う

★現状と課題

本市の行政DXをより加速していくため「岸和田市行政DX推進計画」を策定し、職員も幸せを感じ、市民の皆様も幸せを感じる、そんな未来をめざすため、市役所も変革するために「岸和田市行政DX推進計画」を策定する。策定するにあたり、1月4日～2月5日にパブリックコメントを実施する。岸和田市行政DX推進委員会システム部会審議事項を報告。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
DX外部デジタル人材活用			2,400	2,400	2,400				
RPAライセンス・研修			1,518	1,518	1,518	1,518	1,518	1,518	
ノーコードツール導入・伴走支援			5,165	5,165	5,165	5,165	5,165	5,165	
汎用電子申請サービス			2,144	2,144	2,144	2,144	2,144	2,144	
デジタル人材育成研修委託				3,300	3,300	1,000	1,000	1,000	
AI音声認識会議録支援システム				3,082	2,211	2,211	2,211	2,211	
生成AI(ChatGPT)サービス				1,660	1,585	1,585	1,585	1,585	
財源内訳	国費			2,310	2,310				
	府費		1,199	799					
	起債								
	一般財源		10,028	16,160	16,013	13,623	13,623	13,623	
	その他								
事業費			計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			78,461	19,269	18,323	13,623	13,623	13,623	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
① 行政DX推進委員会・作業部会開催回数	回			3	2	2	2	2	2
② 職員デジタル人材育成	人				100	100	50	50	50

※事業費及び人員を確約するものではない。